

「第2回 投票環境の向上に関する検討会」議事録（要旨）

- 1 日時 : 平成29年8月23日（水） 15時30分～17時
- 2 場所 : 小倉北区役所西棟7階 710会議室
- 3 出席者 : (委員) 山崎会長、森委員、下菌委員、橋本委員、植田委員、
佐久間委員、多田委員、大石委員
(事務局) 大下事務局長、松成次長、中川選挙課長、
川原管理担当係長、森選挙担当係長、
- 4 議事録 : 以下のとおり

<テーマ1 期日前投票所のあり方>

- (1) 商業施設等への期日前投票所のあり方
- (2) 全区対応型の期日前投票所の設置
- (3) 出張所での期日前投票所の開設時間等
 - ・事務局からの現状及び課題等・方向性の説明に対し、特段の意見なし。

<テーマ2 当日投票所のあり方>

- (1) 共通投票所の設置
 - ・事務局からの現状及び課題等・方向性の説明に対し、特段の意見なし。
- (2) 投票所への移動支援
 - ・今後高齢者の比率が高くなっていくなかで、一定以上の投票率を確保するとなると、高齢者に対する配慮がないと難しいと思う。
- (3) 出張所での期日前投票所の開設時間等
 - ・事務局からの現状及び課題等・方向性の説明に対し、特段の意見なし。

<テーマ3 選挙啓発等のあり方>

- (1) 若年層への教育及び啓発
 - ・見やすく、ゲーム感覚の若者向けの選挙サイトがあるので、例えば、候補者の記事が載っている新聞の紙面に併せてサイトの広告を掲載してはどうか。
自分の立ち位置がどこにあるかわからないから、候補者を選ぶことができず、候補者の主張がわからないから、政治に興味を持たず、選挙を難しいと思っている部分もあると思うので、そういったサイトを見れば、少しは身近に感じて、候補者の主張を考えるようになるのではないか。

- ・聞きたい項目を絞って、全ての候補者にインタビューして、ネット等に掲載することも考えられるのではないかな。
- ・投票区毎の投票率を調査する中で、学生や若い勤労者が多い地区は投票率が低い傾向がある。
逆に地域共同体的な住民同士の横のつながりが強い地区は高い傾向にある。
同じ啓発活動を行うとしても重点地区（都心部や学生街等）を設定して、何らかの働きかけをする必要がある。
各区の明推協会長にデータを示し、何らかの対策を考えてもらいたい。

(2) 子育て世代への啓発

- ・プリントを配布するだけでは効果が期待できないので、子どもと親と一緒にポスターや詩を書いたりすることで、意識付けができて、興味を持っていくことになるのではないかな。
啓発を、子どもを通じて行うことで、保護者、子どもにも意識がつくと思う。高校生になっていきなりやるよりも、幼稚園・小学生の頃からやっていると大人になった時に違うのではないかな。
- ・小学校の発表会等で、選挙に関係した発表をしてもらってはどうか。プリント等よりも考える回数や時間が長いのではないかな。
- ・子ども議会を親と一緒にすることで、普段ニュースでしか見ないところを実際に体験してみることで、身近に感じられるのではないかな。
- ・議会棟の見学など、話だけでなく、目で見てもらって知ってもらうことも子どもにはいいのではないかな。
- ・選挙に関するゲームを企画して、親子レクレーションや学校行事に取り入れたらいいのではないかな。
- ・他の政令市も色々取り組んでいるが、どこも苦戦している。一步一步やっていくしかない。川崎市や千葉市がしているキャンペーンのようなことをやっていくか、松山市の選挙コンシェルジュのように学生に主体的に選挙の支援をやってもらうか。昨年度の選挙で学生に北九州市立大学に設置した期日前投票所の立会人をやってもらったが、制度がわかったとか、勉強になったとの意見が多かった。こうした小さい取り組みからやっていくしかないのかなと思う。
- ・NIE という学校現場で新聞を教材として役立てる取組のなかでも、30～40 歳代の親にどうやって新聞を読んでもらうかが最大の問題だった。これは投票率の問題と非常にリンクしていると感じた。どう 30～40 歳代を取り込めるかが将来的な問題にもつながるし、即効性もあると思う。

(3) 投票者へのインセンティブの付与

- ・選挙割が北九州市にもあることを知らない人が多いので、SNS 等で各団体が拡散することで、若者に少しでも届くのではないかな。